

SHALLOAN

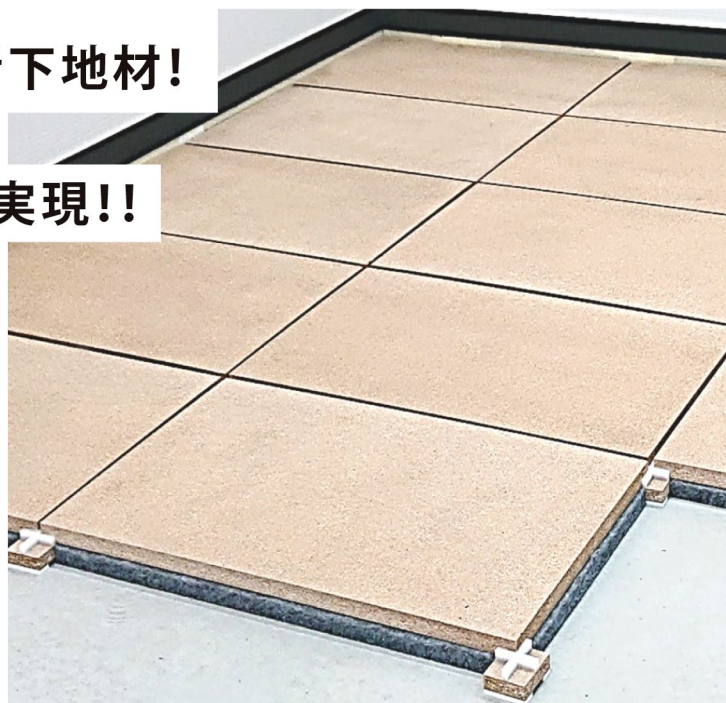
直床断熱遮音ユニット

シャルダン

仕上げ材を選ばないマルチ遮音下地材！
SPCフローリングで
△LL(Ⅱ)-3S、△LH(Ⅱ)-2Sを実現！！

SPF400

製品ページ ▶



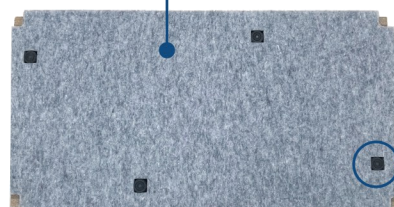
シャルダンSPF400は専用部材で敷き並べる簡単施工の床下地材です。【低床】【高遮音】【高断熱】と機能性を追求しSPCフローリングとの組合せで「簡単仕上げ」×「簡単下地」の相乗効果による革新的な床施工を可能にします。



特徴

- ✓ 低床 : 40mm
- ✓ 遮音性能 : △LL-3 (LL-45相当)
- ✓ 断熱性能 : 熱伝導率0.033W/(m.K)
- ✓ 省施工 : 一般的な乾式二重床の1/3以下の施工時間

吸音断熱材



(製品裏面)

防振支持脚



製品仕様

サイズ	40×455×910(mm)
重量	6.5kg/枚
荷姿	本体 44枚/パレット ※端部処理材15本/箱 締結材30ヶ/箱 ※別売

施工動画



イイダ産業株式会社

IIDA INDUSTRY CO.,LTD

〒492-8446 愛知県稲沢市目比町一町割 770-1

TEL : 0587-36-6100 FAX : 0587-36-6101

URL : <https://kenzai-ortex.jp/>

【施工動画】



【製品ページ】



直床断熱遮音ユニット シャルダン[®] S P F 4 0 0 施工要領

※ 施工の際には下記の施工要領に従って、正しい製品のお取扱いをお願いします。

※ 製品の遮音性能等級は、第三者試験機関における一定条件下の試験を基に導出された値であり、実際の現場の遮音性能を保証するものではありません。

実際の現場における遮音性能はスラブ厚、面積、端部の納まり方等の諸条件により異なります。

○ 製品概要

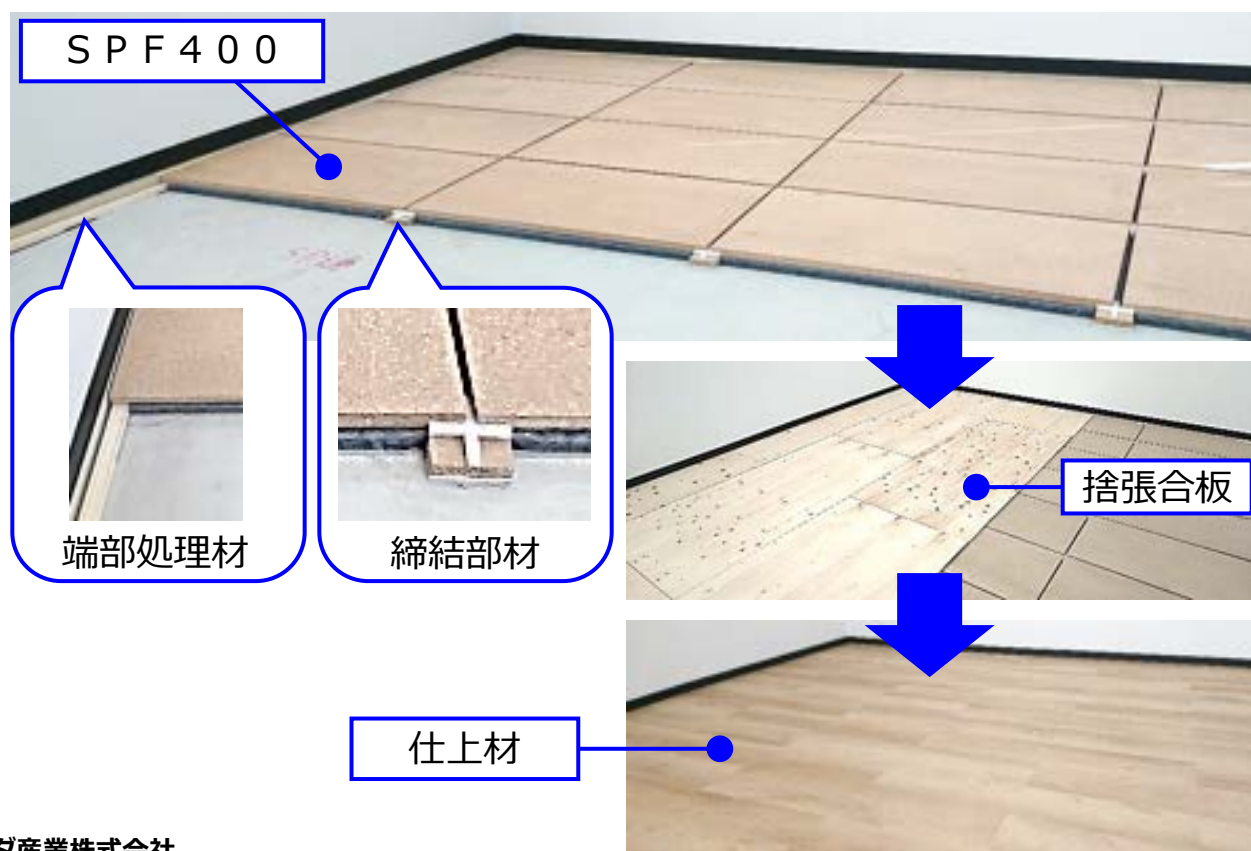
『直床断熱遮音ユニット シャルダンSPF400』（以下SPF400）はあらゆる仕上材に対応したユニット型の床下地材です。

ユニット（製品本体）を専用の締結部材で連結して敷き並べます。

○ 必要な道具

電動ノコギリ（丸鋸） / 電動ドライバー（インパクトドライバー）

カッター / スケール / ほうき / ちりとり

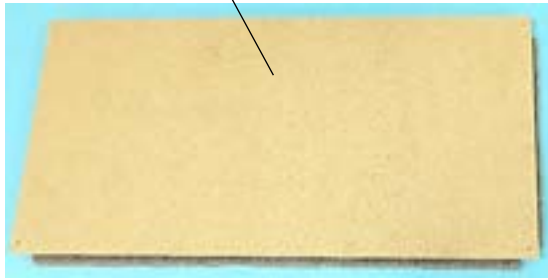


○ 製品仕様

・ S P F 4 0 0 (本体ユニット)

(厚さ) 4 0 mm x (幅) 4 5 5 mm x (長さ) 9 1 0 mm

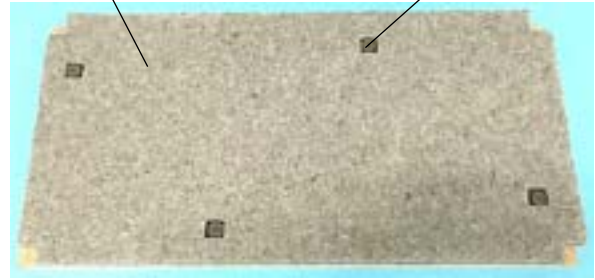
パーティクルボード (厚さ20 mm)



ユニット表面

断熱吸音材 (厚さ20 mm)

防振ゴム (厚さ20 mm)



4 個

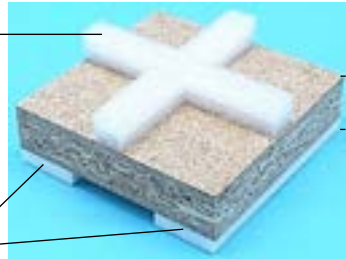
ユニット裏面

・ 締結部材 : 30個 / 箱 ※ 別売

(厚さ) 2 0 mm x (幅) 7 0 mm x (長さ) 7 0 mm

格子状緩衝材

幅 1 0 mm



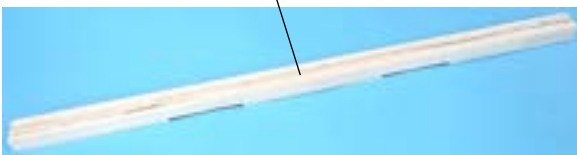
2 0 mm

下部緩衝材

・ 端部処理材 (緩衝材付き際根太) : 15本 / 箱 ※ 別売

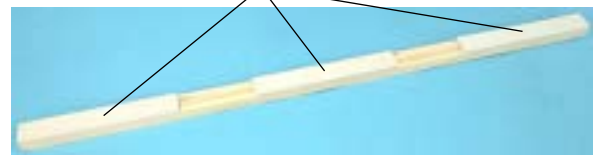
(厚さ) 2 0 mm x (幅) 3 0 mm x (長さ) 8 0 0 mm

L V L



端部処理材表面

緩衝材



端部処理材裏面

・ 間隙緩衝材 (粘着剤付き) : 40個 / シート ※ 端部処理材に同梱

(厚さ) 1 0 mm x (幅) 1 0 mm x (長さ) 1 0 mm



・ 捨張合板 ※ 必須, 現場調達

(厚さ) 12 mm 以上を推奨

○ 施工手順

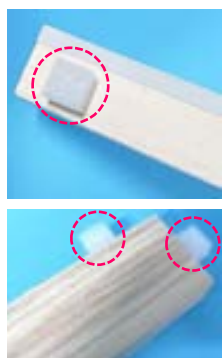
1. 施工を始める前に

- ・ 本製品は高さの調整ができません。
スラブの不陸が1000 mmにつき3 mm以上（±1.5 mm以上）ある場合は調整をお願いします。
- ・ スラブの上にゴミがないように清掃してください。
- ・ ユニットの枚数 / 締結部材の個数 / 端部処理材の本数を確認してください。
- ・ 部材に過度の変形や損傷がないことを確認してください。
- ・ 仕上材の敷設方向を確認してください。
ユニットの長手が仕上材の長手と同じ向き、方向になる様に敷いてください。

2. 本体ユニット（S P F 4 0 0）の敷き並べ

端部処理材の設置

- ① 敷設する床素面の周囲（壁）に沿って端部処理材を設置してください。
端部処理材の端に間隙緩衝材を取り付け、壁-端部処理材間に10 mmの間隙を確保します。
端部処理材裏面の緩衝材に接着剤を塗布し、スラブと接着施工してください。（※ 推奨接着剤：ウレタン樹脂系）



間隙緩衝材



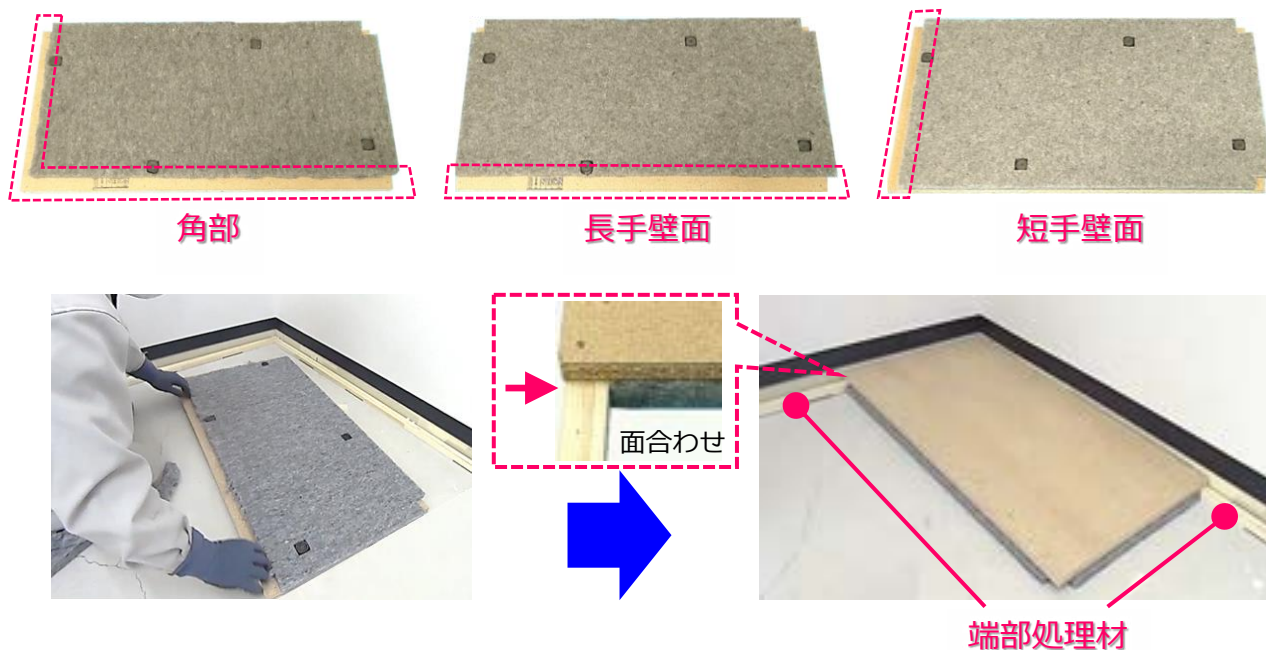
接着剤塗布



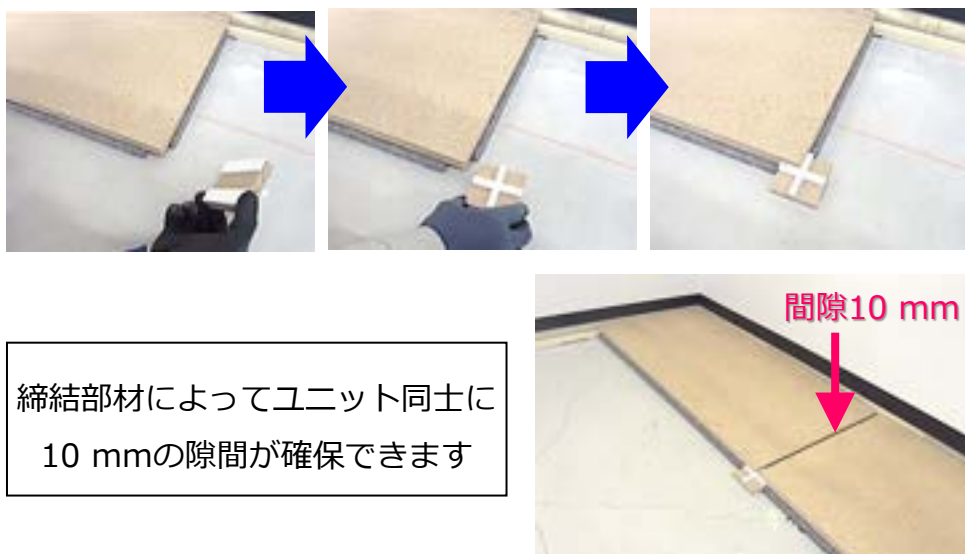
本体ユニットの仮並べ

- ② 敷きはじめ角部及び、壁際に設置するユニットは端部処理材と干渉する部位の断熱吸音材をスリットに沿って剥ぎ取ってください。
剥ぎ取って露出したパーティクルボード（30 mm幅分）を端部処理材の上に被せ端部処理材の端部とユニットの端部が面合わせになるように設置してください。

＜断熱吸音材剥ぎ取り部位＞

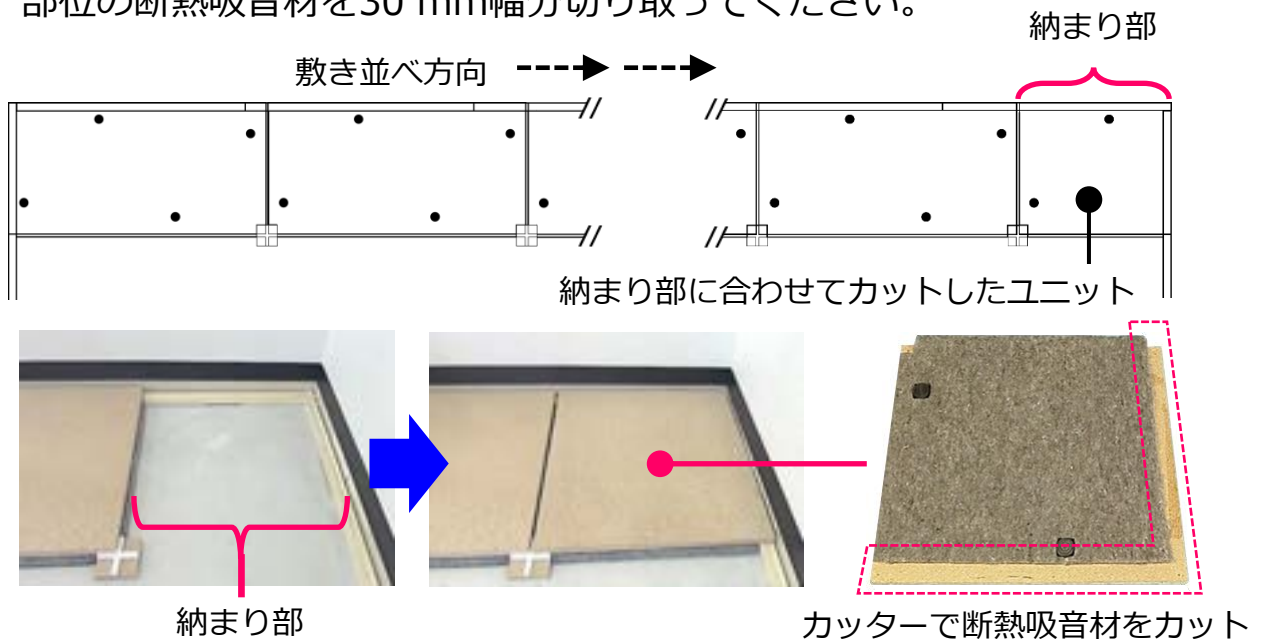


- ③ 締結部材を設置しながらユニットを敷き並べてください。
敷き並べる際、ユニット角部の断熱吸音材の切り欠きに合わせて締結部材をはめ込みます。
締結部材の格子状緩衝材により、ユニット間に10 mmの間隙が確保されます。



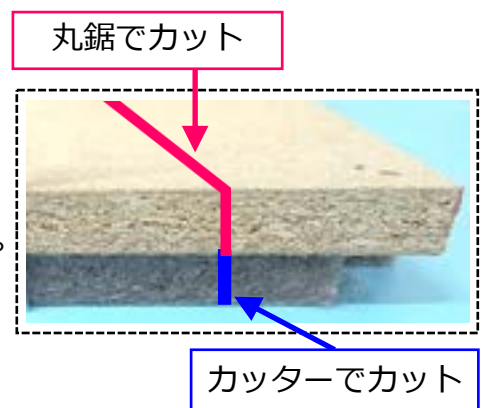
納まり部の施工（ユニットのカット）

- ④ 納まり部に合わせてユニットをカットし、納まり部の端部処理材と重なる部位の断熱吸音材を30 mm幅分切り取ってください。



※ ユニットのカット

パーティクルボード部分のみ丸鋸でカットした後、断熱吸音材をカッターでカットしていただくと加工が簡単です。

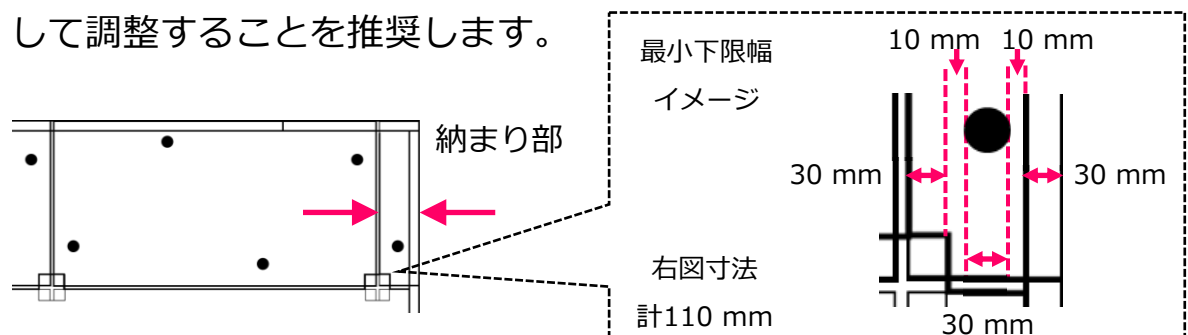


※ 納まり部（張り終わり）のユニット寸法の目安

防振ゴムが少なくとも1つ残る寸法幅を確保してください。

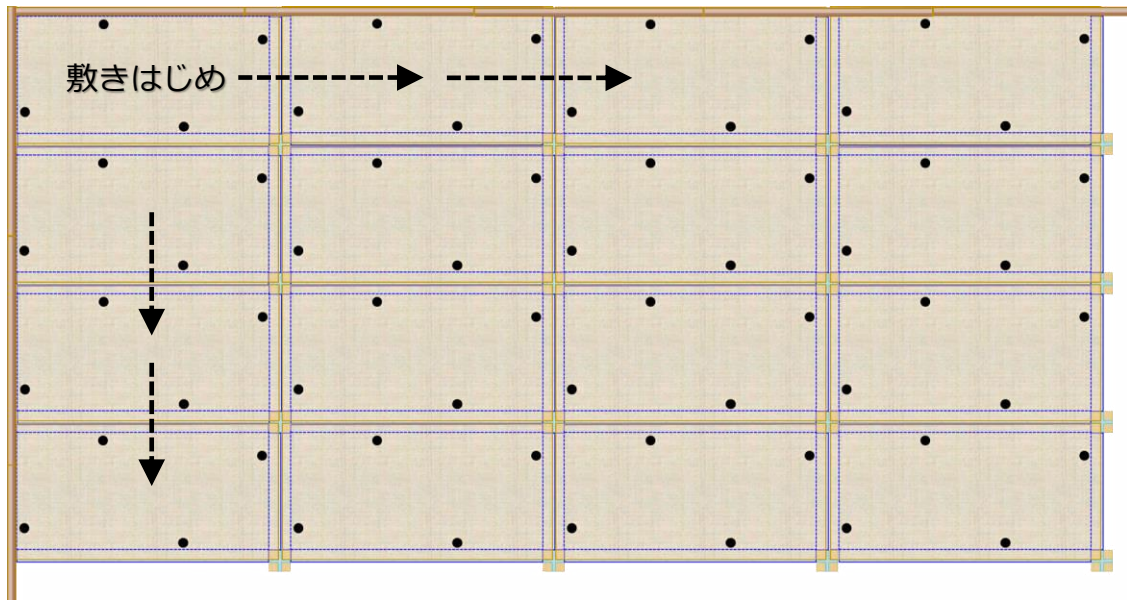
（推奨寸法幅：110 mm以上）

110 mm幅以下になる場合前の行・列のユニットをカットするなどして調整することを推奨します。



十分な寸法幅が確保されていない場合、沈み込みの発生や端部処理材と防振ゴム、締結部材が干渉し、床鳴りの原因となります。

○ 敷き並べ図



※ ユニットは壁際角部(向かって左手奥)から敷き並べを開始してください。

※ 床素面（下地）への防振ゴム, 締結部材の接着は不要です。



ユニットの敷き並べイメージ

ユニットの連結（ビス固定）

⑤ ユニット端部は300 mm以下のピッチで端部処理材とビス固定してください。（目安：ユニット短手3箇所 / ユニット長手4箇所）

ユニットの四隅は締結部材とビスで固定してください。



長手端部



短手端部



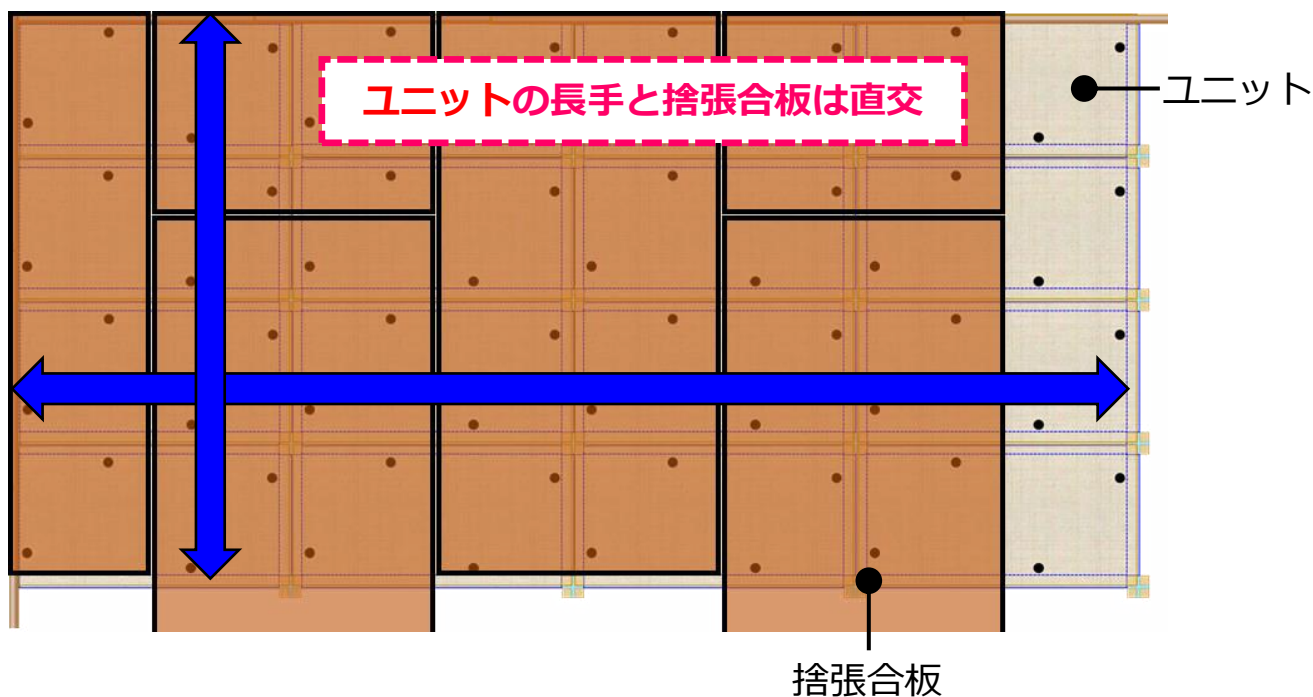
四隅

※ 長さ25 mm以上のスクリュー釘またはビスを使用してください。

3. 捨張合板の敷設

捨張合板はユニットの長手方向に対し、直交方向にレンガ張りで敷いてください。

捨張合板は厚さ12 mm以上のものを推奨します。



捨張合板は壁から10 mmの間隙を確保し、ユニットの端部と面合わせになるように敷いてください。

また、ユニットの目地と捨張合板の目地が合わないよう敷いてください。捨張合板の継ぎ目は突き付けずに3～5 mm程度の間隙を確保してください。

※ 捨張合板とユニットは長さ25 mm以上のスクリュー釘またはビスを使用し300 mm以下のピッチで固定してください。



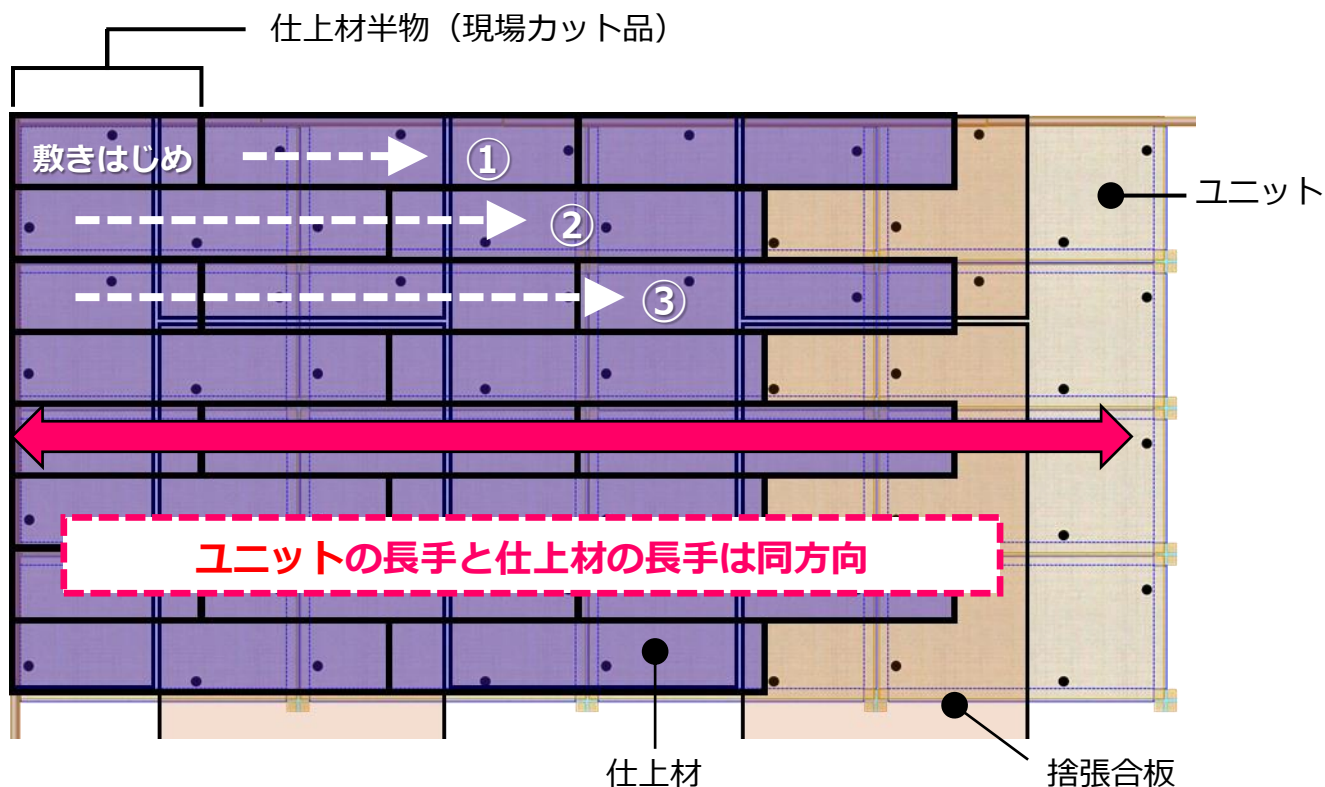
捨張合板敷設イメージ

4. 仕上材の敷設

仕上材はユニットの長手方向と同じ向き（捨張合板と直交方向）に敷いてください。

敷設の際、壁から5 mmの間隙を確保してください。

敷きははじめは半物を用い、レンガ張りになるよう壁際角部(向かって左手奥)から一行ずつ敷き進めてください。



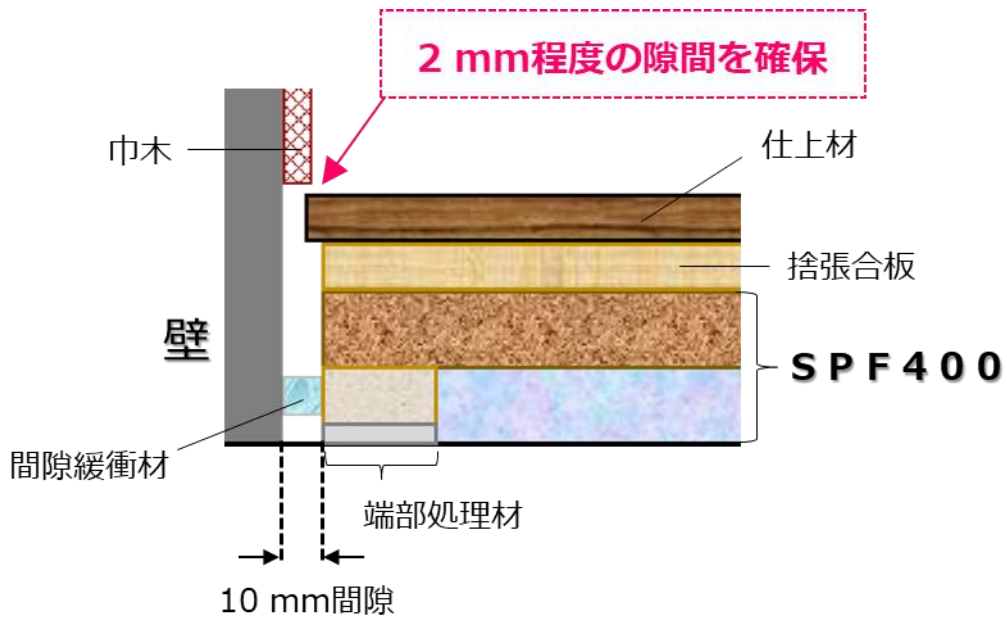
※ 各種仕上材の施工方法はそれぞれのメーカー様の施工要領に従い施工してください。



仕上材施工イメージ

※ 壁際の施工

巾木は仕上材と垂直方向に2 mm程度の間隙を確保して取り付けてください。



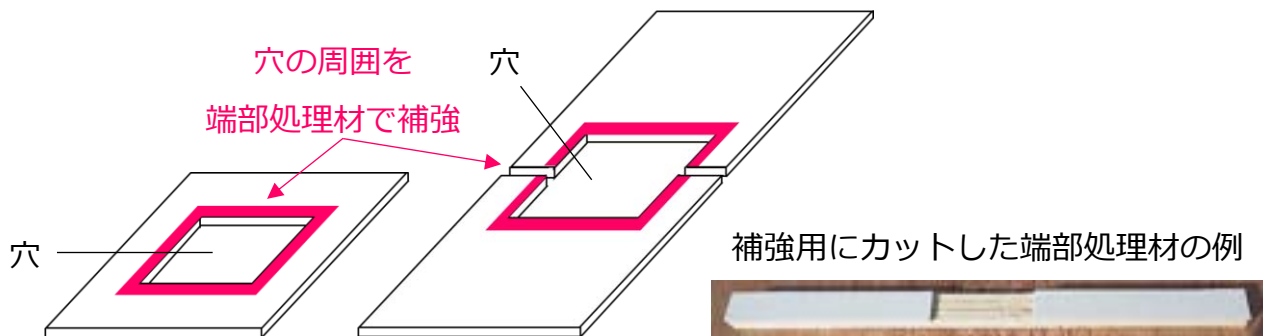
○ ユニット（床下）に穴や切り欠きを設ける場合の処置

ユニットに穴や切り欠きを設けるとその部位の強度が低下するため、カットした端部処理材を設置し、補強する必要があります。

設置する端部処理材は穴や切り欠きの大きさ、補強部位の長さに合わせ、現場にてカットしてください。

カットした端部処理材は穴や切り欠きの周囲に追加してください。

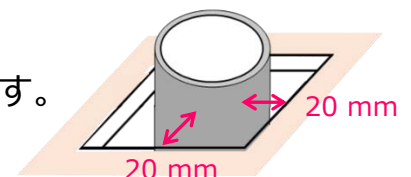
追加に際し、端部処理材とラップする部位の断熱吸音材を30 mm幅分切り取ってからビスで固定してください。



○ 床下配管の立上がり部の処置

配管周りは配管とユニットが触れないよう20 mm程度の間隙を設けてください。

※ ユニットと配管が触れると床鳴りの原因になります。



○ 床下に配線/配管を通す場合の処置

床下に配線/配管を通す場合、通す配線/配管の経の大きさに注意してください。
配線/配管の経が床下空間（20 mm）に対して十分に小さく、設置後に
ユニットと接触しないか事前に確認してください。

通す場合、通す箇所の断熱吸音材をカッターでカットし、取り除いてから設置
してください。ユニットと配線/配管が触れると床鳴りの原因になります。

○ その他の注意事項

※ ユニット、締結部材、端部処理材は水に濡らさないようにしてください。

また、長時間湿気の多い場所、もしくは直射日光の当たる場所に放置しないで
ください。破損・たわみ・突き上げ・床鳴り等の原因となります。

※ ユニットの上に資材を仮置をする場合は静かに置いてください。

また、1ヶ所にまとめず、分散させて置いてください。

最終的に捨張合板と仕上材を施工することで強度が発揮されますので、
施工途中の段階で強い衝撃を与えたり、過度の重量物(200 Kg/m²以上)を
置かないでください。

まとめて仮置きをした場合、床のたわみが戻るまで時間がかかり、
捨張合板及び、仕上材の施工に支障が出る可能性があります。

※ ユニットの敷いた後にユニット同士の隙間を確認してください。

隙間がない場合、広すぎる場合、締結部材が正確に設置されていない可能性が
あるので確認し調整してください。

※ ユニットの施工後、及び捨張合板の施工後は、必ず床鳴りが発生していないか
確認してください。

床鳴りが発生している場合は、原因を調べ修繕してから次の工程へ進んで
ください。

※ 床暖房の施工方法はそれぞれのメーカー様にお問い合わせください。

※ 特殊な環境で使用する場合は事前にご相談ください。